

広島大学附属幼稚園

カメラを用いた「モザイクアプローチ」によって 子どもの意外な“お気に入り”が見えてきた！

取り組みの経緯

日常的に森の中で好きな遊びを楽しんでいる5歳児の子どもたち。卒園を意識するようになった頃、子どもたちに“森のお気に入りの場所”を尋ねることで、思い出を振り返る機会になるのではないかと思います。同時に、子どものお気に入りの場所を知ることは、今後の森の環境づくりに生かすことができることも考えられたため、子どもたちが自分でカメラを使って行う「モザイクアプローチ」の手法を用いてみることにしました。

～こどもたちのこの力を育みたい～

- 感じる・気付く力
- うごく力
- 考える力
- やりぬく力
- 人とかがわる力

取組み内容

1. 取組みのねらい



お気に入りの場所を写真に撮ることで、自分の遊びを友達や保育者に紹介し、遊びの楽しさを共有する



友達や保育者と写真を見ながら遊びや思い出を語り合うことで、遊びを振り返って満足感を得たり、遊びの展開に繋がるような気付きを得たりする

2. 方法

1. 気の合う友達(2, 3人)とカメラを共有し、“森のお気に入りの場所”を撮影する
2. その後、子どもの撮影した写真を保育者がパソコンの画面に映し出し、撮影理由や遊びについて、子どもに聞き取りを行う
3. 「聞き取りシート」を職員間で共有し、子どもに適した森の環境を探る



3. 結果

子どもたちの聞き取りを通して、子どもに適した森の環境を探る中で見えてきたことは…

○自分で作ったものがお気に入り！

自分で作った秘密基地、友だちや先生と作った森のブランコなど、“自分で作ったもの(場所)”は子どものお気に入りでした。

○「景色がいい」「森の匂いがする」など、感覚的なお気に入り！

“見晴らしのいい場所”や“静かで落ち着く木々の中”，“友達がいる場所”など、心地よさを感じる場所を挙げる子どもが多くいました。

○自分だけの特別だけど、誰かと共有したい場所がお気に入り！

聞き取りでは“秘密”と“友達”というワードが多くみられました。お気に入りには、自分(達)だけの秘密だけれど、友達や先生にも教えたい、そんな特別な場所のようです。

<結果から見えてきたもの>

子どもたちは、森の遊びだけでなく、自然そのものをお気に入りと感じていることがわかりました。子どもに適した森の環境とは、自然をそのまま残しつつ、子どもが手を加えられるよう適度に整えられた環境であると考えます。ありのままを大事にした、余地のある環境構成が望まれます。

<聞き取りシートの例>



4. 砦の修繕

子どもたちの遊びのきっかけとしての砦の修繕にも着手しました。保護者の協力をいただき、大人も一緒に子どもたちの遊びに思いを寄せ、わくわくする機会になりました。



<今回の取組みを通して>

子どもが好きな自然環境は、作り込まれた人工的な自然でもなく、手つかずのそのままの自然でもないことがわかりました。そのバランスを保育で考えていくことが大切なのだと思います。 園長 七木田 敦

